

駒の子短歌

No.65 令和3年2月19日(金) 佐久市立望月小学校

校長講話で校歌を作った人やその思いを伝え、「校歌を好きになるとはどういうことか？」と考えてもらいました。

6年生の感想を紹介します。

今まで何気なく歌っていたけど、裏でこんなに苦労していたのを知って、今度から歌うときは、しっかりと「何でこの詩になったんだろう？」と考えながら歌ってみようと思いました。

(6年1組 小林さん)

私は校長先生のお話を聞いて、校歌の大切さを知りました。特に大切だと思ったのは、作詞・作曲をしてくれた人たちの思いと、がんばって作ったありがたさです。

私はあと少しで卒業してしまうけど、作詞・作曲をしてくれた人たちの思いと。ありがたさと、校歌にこめられた思いを忘れずにいきたいです。

(6年1組 田中さん)

「好きになるには努力が必要」という言葉にすごく感動しました。私もたくさん努力をして、いろんなことを好きになっていきたいです。

(6年1組 鈴木さん)

校歌のことについては、昨日聞いたお話になかった事が少しあったので、全部よく聞きました。望月小学校の校歌に、そんなに有名な人が作詞、作曲したことは何度聞いても驚きます。

校長先生には悪いんですが、ぼくは友だち全員にさんづけは、あまりよくないと思います。どうしてかと言いますと、全員にさんづけしたら、相手が「距離を置かれている」と勘違いし、だんだん離れていってしまうかもしれないからです。

友だちを大切にできますが、(さんづけすることで)仲良くなったり、距離が縮まったりすることはないかもしれません。

(6年1組 小林さん)

こめられた 思いを知って 本当に

好きになるため 努力を決意